



厚生文教委員会視察報告

令和5年8月31日

泉大津市議会議長 様

出張者氏名	野田 悦子	委員長
	村田 雅利	副委員長
	井上 信久	委員
	岡本 笑明	委員
	堀口 陽一	委員
	松本 真麗	委員
	丸谷正八郎	委員
	村岡 均	委員
行政参加者	吉野 久絵	保険福祉部高齢介護課長
	山本 圭克	教育委員会事務局教育部指導課長補佐
随行	北野 優子	議会事務局議事調査係主査

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 日時 令和5年8月21日(月)～8月22日(火)
- 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 目的 ・埼玉県鴻巣市「デジタルシティズンシップ教育について」
・東京都豊島区「高齢者元気あとおし事業について」
- 報告事項 別紙のとおり

厚生文教委員会視察報告書

令和 5年 8月 31日

泉大津市議会議長 様

委員長 野田 悦子

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 概 要 今回の視察テーマは二点。教育所管の「デジタルシティズンシップ教育について」を文部科学省からの意見を求められる先進的取り組みを行っておられる埼玉県鴻巣市と、高齢介護課所管の「高齢者元気あとおし事業について」を高齢者の原宿と云われる巣鴨を有する東京都豊島区へ伺った。

埼玉県鴻巣市の紹介を初の女性議長であられる潮田幸子議長から受ける。位置は埼玉県中央部にあり、67.5㎢と広い土地に11万7,700人余りの人口。本市と同様に平坦な土地柄であるそうだが、名前にあるコウノトリの繁殖、野生復帰に力を入れる、緑の広がる花の生産地で季節ごとの花々が咲き乱れるという点ではうらやましくもあった。

デジタルシティズンシップ教育については、ICT教育を推進する中で、情報モラルについての日本独自のネガティブな『～しなければならない』『〇〇に気を付けましょう』などの自制を促す方向に終始してしまいがちな現状を、生まれた時から情報社会に生きている**デジタル・ネイティブ世代**と呼ばれる現在の児童生徒に、よりポジティブなデジタル社会の担い手として、より良い選択を自身でできる人材に育てる教育であると、もう一步進んだ教育現場の状況を指導課一年目の方から、経産省制作のDVDを用いて説明をいただいた。

東京都豊島区は、本市より小さい面積13.01㎢に本市の4倍近い人口で日本一の人口過密と、日本一の75歳以上高齢単身世帯割合に加え特養待機率400%とのことで、高

高齢者の地域での支え合い

が喫緊の課題として以前からあったのだとわかる。

高齢者元気あとおし事業は豊島区で長く続けてこられた事業であると、丸谷委員から教えていただき視察先として選定した。当初は元気な方が、施設やお困りごとのお手伝いをし、交付された手帳にポイントを貯めて現金化できるシステムと思っていたが、高齢で、認知症が進んだ方でも手帳交付の対象となり、その方が外に出ることで頑張れる方がおられたり、笑顔に癒される方がおられるなら、ポイントが付与されるという話をお聞きして、引きこもりがちになる高齢者の外出機会を増やす目的も持っていること知り、なるほどと納得した。もちろん、若い方や仕事を卒業したての方々の高齢者支援の役割も担っており、若い対象外の方は研修を受けて、地域に馴染の少ない元企業戦士などは地域に出ていくきっかけとしての役割も担っているようだ。利用者、元気ポイント手帳の申請者の更新や利用しやすいニーズに合わせた制度に今後も制度改革を続けていくとのことのお話しに「出来た・やった・一定の評価が得られた」だけでない、今後への更なる取り組みの必要性を追い求めているから良い事業になっているのではないかと感じた。

どちらの視察先にも、担当課の職員に同行いただき情報共有できたことが、一つの視察をより有意義な形にできたのではないかと思う。

- 4 所 見 まず最初に、情報モラルとデジタルシティズンシップ教育の違いに始まり、現在多くの全国小中学校で行われている情報モラル教育は2009年当時の実態を反映し作成されたもので、現在の一人一台端末や、授業・課題

の多くをICT利活用によって行われることを前提としていないのですぐわなくなっている。そこでデジタルシティズンシップ教育によるICTの利活用が前提の・信条ではなく、「安全かつ責任をもって行動するための理由と方法」を学ぶ。

・仕組みを理解するだけでなく、法的・倫理的にふるまうための「能力とスキル」を育成する。

そのために、実際に授業で使っているプリントを使って生徒になった気分で書き込み、周りの人との情報共有をした。その後、このプリントは【お家の方からひとこと】欄で今何を学ぼうとしているのか、どの様な考えを持つべきとされているのかを家庭との連携ですすめられるとお聞きした。家庭へは教育の現場で進んだ児童生徒からも変革、浸透していくことも必要なのかと理解した。何が正解か、ではなくより良い選択はなにか考え発表できる児童生徒になるための教育をしている鴻巣市の一步先へ行っている、ある意味違った方向性で取り組んでいるあり方を本市ではどう活かすのか進めることが出来るのかが課題であると感じた。視察終了後に、情報モラルの方が日本人には合うので、デジタルシティズンシップ教育が浸透するまでに何か一つ身近で起これば、あっという間にモラルが中心になるんだろうなと話した。

豊島区の高齢者あとおし事業「元気ポイント手帳」については概要で、おおよそを記したが、課題とした参加者ニーズに合わせたという点が、ポイントの持越し可能による手帳更新・換金が減っておりどんどんたまっていることの将来への心配もあると、事業が拡大しているが故の心配とまだまだ周知の必要性や、更新・申し込みのしやすいイベ

ントなどへのアウトリーチ更新会なども新たに試しているとのことであった。説明の中で気になった「興味関心シート」は要支援の最初のご相談、スタート時にすべての方に書いていただくことで、その方が惹かれて出やすいイベントや、場所へつなぐ一助となっている取り組みである。今は介護をする側であっても、介護予防イベントなどの機会を利用した周知なども本市でも行っているが有効であると思うが、そこにプラスアルファのポイント手帳などがあればより出やすい方が増えるのではないかとより思いを強くした。またこの手帳についても、換金ではなくても様々な考え方で本市にあった取り組みに変換できるのではないかと考える。

以上

厚生文教委員会視察報告書

令和 5 年 8 月 28 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 村田雅利

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 5 年 8 月 2 1 日 (月) ～ 8 月 2 2 日 (火)
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

(1) 埼玉県鴻巣市 デジタルシティズンシップ教育について

「デジタルシティズンシップ教育」とは、オンライン及び ICT の利活用を前提としその環境で安全かつ責任をもって行動するための理由と方法を主体的に学び、情報技術に関連する人的、文化的、社会的諸問題を理解し、法的・倫理的にふるまうための能力とスキルを育成する教育であります。鴻巣市では、国の GIGA スクール構想が立ち上がる前から「学校教育情報化推進計画」を策定して子ども達が ICT 機器を文房具のように日常的に使える環境を実現するため、独自の取り組みを多数実施していました。今の子ども達はどこに行っても ICT がある社会に巣立っていきます。そのような情報社会の中で、悪影響や危険性を恐れて ICT を遠ざけるのではなく、モラルを持った前向きな使い方を学んだうえで、社会でいきいきと活躍し、幸せな生活を送るためには、身近な道具として ICT を使うスキルが必要であります。さらに、ICT は子ども達のひらめきや発想が新しい社会的価値を生み出していくための日常的な道具になります。そして何よりも、子ども達が自ら未来を切り開くために必要なものになります。そのために、教育の情報化を推進し、言語能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成することが求められている。本市でもデジタルシティズンシップ教育を私もさらに勉強し、提案していきたいと思えます。

(2) 東京都豊島区 高齢者元気あとおし事業について

豊島区高齢者元気あとおし事業とは、平成 20 年度から開始。元気な高齢者の社会参加や地域貢献を奨励し、区内の老人福祉施設やフレイルチェック等介護予防事業のサポート等ボランティア活動に応じてスタンプがもらえ、貯まったスタンプ数に応じて、換金できる制度であります。1 時間につき 1 ポイントのスタンプを押印しており、10 ポイント貯まると千円に換金が出来ます。

この事業は豊島区民社会福祉協議会に委託されています。

委託内容は、元気あとおし事業活動記録手帳の作成。元気あとおし会員申込手数料・活動記録手帳の交付・利用説明および受入れ機関の案内。元気あとおしポイントの管理および換金。元気あとおし会員対象者への事業の周知および説明会等の実施。受入機関等への事業の周知および説明会の実施。元気あとおし会員申込者への各種情報提供。

対象者につきましては、60歳以上の区民。高齢者福祉課主催の人材育成事業等を受講しボランティア登録をした者。豊島区に在住・在勤する者のうち、高齢者の地域活動に理解があり、その活動に寄り添い、あとおしをする意思を持つ者。その他、区長が認めた者。である。

委託料は、2569000円。

令和4年度の登録者数は549人、受入れ機関数は63機関である。

今後の展望として、参加者のニーズに合わせた利用しやすい制度づくりが課題と言われていました。元気あとおし事業の受入れ機関が増え、多様なボランティアが増えてきている。そのため、元気あとおし事業のポイント更新のためにボランティアセンターに足を運ぶことを不便に思うボランティアも増えてきていると。更新会を他の高齢者福祉課のイベントと合わせて開催するなどの実際に活動場所にボランティアセンターの職員が伺いポイントの更新を行うなどの、ボランティアのニーズに合わせた利用しやすい制度にしていくことが必要であるとおっしゃっていました。

この事業は、本市にすごく合っている事業だと考えます。さらに勉強して提案していきたいと思います。

厚生文教委員会視察報告書

令和5年8月25日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 井上 信久

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

令和5年8月21日（月）：【1日目】埼玉県鴻巣市

「デジタルシティズンシップ教育について」

デジタルシティズンシップ教育の取り組みについて説明。

デジタルシティズンシップ教育とは、オンライン及びICTの利活用を前提とし、その環境で安全かつ責任をもって行動するための理由と方法を主体的に学び、情報技術に関連する人的、文化的、社会的諸問題を理解し、法的・倫理的にふるまうための能力とスキルを育成する教育。

STEAMライブラリーを使った授業について

STEAMライブラリー 未来の教室の動画を視聴する。

◇学ぶこと 【責任ある配信ってどういうこと？】

- ①自分の思いを大切にしつつ、周りへの気づかいを考えると
どんなこと？
- ②責任をもった情報の発信とは？

上の質問を各自から回答を聞き対話型で進められた。

情報発信とは、インターネット、郵便・放送など通信の手段を使って何かの事がらの様子や知らせを相手に伝えるために送り出すこと。

ネットの発信と責任のリング

- 外の円 : 公（見知らぬ人々・世界）
- 真ん中の円 : 共（まわりの人々）
- 内の円 : 私（わたし）

情報を発信し行動する時の3ステップ

- ① 立ち止まる : 困った時、つらい時は、いったん立ち止まろう
- ② 考える : 今、何をしてほしいか、何をすべきか考えよう。
- ③ 相談する : 信頼できる人に相談しよう

【感想】

埼玉県鴻巣市のデジタルシティズンシップ教育の取り組みを聞かせて頂き感じたことは、説明をされている職員さんが、異動されて1年目とお聞きし、とても上手に説明されていた。

以前は、教育の現場で先生をされていたとのことで、子ども達にもわかりやすく説明していたことでしょう。

泉大津市でも子どもたちに1人1台タブレットを提供し、教育を進めています。

デジタルシティズンシップ教育の取り組みを教育委員会に持ち帰り、指導課の先生が子ども達にわかりやすく、一緒に話し合い、考え、自分の考えをまとめることができる指導を実施することを願う。

令和5年8月22日（火）：【2日目】東京都豊島区

「高齢者元気あとおし事業について」

豊島区では、平成20年度から、元気あとおし事業を開始。

元気な高齢者の社会参加や地域貢献を奨励し、区内の老人福祉施設やフレイルチェック等介護予防事業のサポート等ボランティア活動に応じてスタンプがもらえ、貯まったスタンプ数に応じて、換金ができる制度。1時間につき1ポイントのスタンプを押印しており。10ポイント貯まると千円に換金出来る。

<元気あとおし事業の概要>

事業委託先、豊島区民社会福祉協議会

委託内容、

- (1) 元気あとおし事業活動記録手帳の作成
- (2) 元気あとおし会員申し込み手続き・活動記録手帳の交付・利用説明および受入機関の案内
- (3) 元気あとおしポイントの管理及び換金
- (4) 元気あとおし会員対象者への事業の周知及び説明会等の実施
- (5) 受入機関等への事業の周知及び説明会等の実施
- (6) 元気あとおし会員申込者への各種情報提供

委託料、

2,569,000円（令和5年度の事業運営委託契約金額）

対象者、

- (1) 60歳以上の区民
- (2) 高齢福祉課主催の人材育成事業等を受講しボランティア登録した者。
- (3) 豊島区に在住・在勤する者のうち、高齢者の地域活動に理解がありその活動に寄り添い、あとおしをする意思を持つ者。
- (4) その他、区長が認めた者。

現在の会員数

男性：80人

女性：469人

合計：549人

【感想】

男性の会員登録数が少ないとのこと。理由は、定年退職されてからも、仕事を続ける方が多いため。

参加者のニーズに合わせた利用しやすい制度づくりが課題とのこと。

泉大津市でもこのような事業があれば、高齢者のみなさんでつながり、地域の活性化につながることになるので事業化して頂きたい。

厚生文教委員会視察報告書

令和5年8月24日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 岡本 笑明

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 日時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

●1日目【デジタルシティズンシップ教育】

花とひな人形の街であり、鴻巣という地名からコウノトリの飼育に取り組んでいる鴻巣市は、デジタルシティズンシップ教育をどう取り入れて、教育の向上や教員の負担軽減に取り組んでいるのかを学ばせていただきました。ICTの利用をするしなく、利用し、それを活用することを前提とした授業の中で、安全かつ責任をもって行動するための理由と方法を学ぶ授業をされていました。誰もが簡単に良い情報も悪い情報も流せる世の中で、情報が入り乱れています。溢れる情報の中から、本物の情報を自分で選択できる子どもたちを増やすためにも、授業でわかりやすく伝えられていました。

【責任ある発信をすること】

①自分の思いを大切にしつつ、周りへの気づかいを考えること。

②責任をもった情報の発信をすること。

上記のことを子どもたちが話し合い、より良い答えを出せる授業をされています。また、難しい言葉を使うのではなく、わかりやすい日常に置き替えて、授業をされていました。

例えば、お料理をするときの包丁と、インターネットの使用を例題に挙げています。

- ・リスクはある
- ・生活に欠かせない
- ・学校でも、家庭でも
- ・大人が見守る、教える
- ・成して学ぶ

危ないからダメ！と取り上げて使わせないのでなく、どのように使い続けるのか？が大切なことを教えていました。

また、実際に私たちも授業で行っているワークシートをもとに、授業を体験させてもらい、答えは1つではなく、色々な考え方を尊重し、たく

さんの角度からより良い答えを導き出すことを学ばせてもらいました。自分の意志をきちんと伝えながらも、周りを思いやる心を養える教育だと感じました。

●2日目【高齢者元気あとおし事業】

13.01k㎡と、泉大津市よりコンパクトな街に、泉大津市の4倍にもなる288,610人が住む日本一人口密度が高い豊島区に行ってきました。

巨大ターミナルで、駅周辺だけを歩くだけでも距離を感じます。

豊島区役所のスケールは絶大で、上階にはマンションがあり、最上階は6億で売りに出されていることや、吹抜けの館内は隅々まで美しく贅沢な空間で圧巻でした。豊島区では、元気ポイント手帳をいうものをご高齢者に発行しています。パンフレットの活動先一覧から、ご高齢者が希望する活動先を選び、活動が終わればスタンプを貯めていきます。10ポイントで1000円のキャッシュバックがあるという画期的な取り組みでした。この取り組みがあれば、ご高齢者さんも自分の興味ある活動を探し、社会貢献しながら、お小遣いもいただける仕組みです。

視察に行くまでは、言葉のイメージからご高齢者が元気であるための食事や介護のサポートのことだと思い込んでいましたが、逆にご高齢者さんたちが動き、世の中に溶け込むためのあとおしする仕組みを作っていることに衝撃でした。逆の発想はやはり世の中を変えていくと感じます。ご高齢者が住みたくなる街豊島区として、今後も続けてほしいと思いますし、本市でも取り入れることができればご高齢者さんの生きる力にもなるのではないかと思います。

今回初めて視察に参加させていただきましたが、他県の先進的な取り組みを学ばせてもらったり、共有したりすることの大切さを知ることができました。また、他の議員さんともお話することができて、とても充実した時間でした。有難うございました。

厚生文教委員会視察報告書

令和 5年 8月 31日

厚生文教委員長 様

委員 堀口 陽一

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

所 見 鴻巣市デジタルシティズンシップ教育

鴻巣市では、デジタルシティズンシップ教育について視察を行いました。本市教育指導課からは山本氏が参加され、本市でも取り組んでいる情報モラル教育との比較をお聞きしました。

本市での情報モラル教育も当然成果があり、正しい判断力と相手を思いやる心でネットワークをより良くして、公共心を育む取り組みをしていますが、昨今の社会情勢により I C T が日常的に利活用される時代を想定できていなかったのが情報モラル教育であると感じました。

他方、デジタルシティズンシップ教育は、I C T の日常的利活用が前提でネット依存やそのことによる昼夜逆転など、日常生活に悪影響が出ないように、事前の対策がメインに取り組まれていました。

特に責任ある発信として、

- ① 自分の思いを大切にしつつ、まわりへの気づかいを考える。
- ② 責任を持った情報発信をする。

というように、相手の立場にたって何が嫌なのか、しっかり議論して答えを導き出しています。

情報モラル教育ではそこまでのディスカッションが出来ていなかったように感じました。

デジタルシティズンシップ教育を総括しますと、先ずこの先進的な取り組みをする事によって、先生も生徒も職員も、また、保護者や議員もその内容に対して理解を深めようとしています。

その事によって自治体全体で I C T で起こり得る危機を

回避しようとする対策が共通認識として生まれる効果は、大変大きいと感じました。

また、担当教諭だけでなく全体のスキルアップに繋がっていました。

本市においても意識づけをするという意味でもデジタルシティズンシップ教育の導入は必要と感じました。

所 見 豊島区高齢者元気あとおし事業について

豊島区の取り組む高齢者元気あとおし事業は、平成20年度から豊島区民社会福祉協議会に委託をして開始しています。

元気な高齢者の社会参加や市域貢献を奨励する形です。区内の老人福祉施設やフレイルチェック等介護予防事業のサポートやボランティア活動に応じてスタンプがもらえ、貯まったスタンプ数に応じて、換金できる制度です。

1時間につき1ポイントを押印しており10ポイント貯まると千円に換金出来ます。

事業の目的は、この事業を実施することにより、高齢者がボランティア活動を通して社会参加・地域貢献することを奨励及び支援し、高齢者自身の介護予防に寄与するとともに、地域ケアの担い手となる元気な高齢者を増やし、豊島区の地域福祉を推進することです。

このように、全国的な課題である超高齢化社会に対応するために知恵を絞って事業を推進していました。豊島区民社会福祉協議会への委託料としては、約260万円と大きな金額負担ではありませんので、費用対効果としては一定の成果はあると考えられます。

ただ、この事業への参加者は女性469人・男性80人と男性の参加者が少ないと言う課題も見受けられます。

今後の課題としては、参加者のニーズに合わせた利用しやすい制度づくりが必要となってきます。

この事業を視察して感じた事は、少子高齢化の中で先ず高齢者の社会参加に焦点を絞って事業を立ち上げた事は十分に評価できると思いますし、自治体が高齢者に対する

施策もしっかりやっていきますよという意思表示でもあり、高齢者を見放さない自治体という住民への信頼感にも繋がると感じました。元気な高齢者を作るという全国的な課題に立ち向かう意気込みを感じました。

本市においても、試行錯誤をしながらチャレンジをする事が重要だと考えます。

厚生文教委員会視察報告書

令和5年8月24日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 松本真麗

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 日時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

・埼玉県鴻巣市デジタル・シティズンシップ教育について

教育委員会が ICT 教育の先頭に立っていると感じた。その点については非常に素晴らしいと感じた。泉大津市は、ICT 導入に関しては積極的だが、教育委員会などによる教員に対する十分なバックアップがあるとは思えない。道徳の授業をどう進めるか、という点と、ICT 教育の論点が整理されておらず、ICT の問題なのか、道徳授業の問題なのか、という点での突き詰めが混乱した。

ICT を活用しての教育の質の向上については、どこの地域でも、課題であるのだろうと思った。

どうやって、ICT による子どもたちのこれからをサポートしていくのか、デジタル社会に対して、どんな風にコミュニケーションをとっていくのか、どんなものを作って他者とつながっていくのか、その責任について学んでいくのか、非常に興味深く話を聞いた。

また、ICT がコミュニケーションである以上、家庭へのアプローチは、これからの課題になっていくのだろうということも感じている。

とはいえ、デジタル自体が文章中心での表現になることを考えると、そこから子どもたちが排除されないようにすることの意義や、場所や時間を問わない学習、公教育とは何なのか、ということ問い続けていかなければならないという点で、教員たちの在り方も問われていることだということを感じている。

・豊島区元気あとおし事業について

参加されるお年寄りの方々ひとりひとりの存在を肯定しようという価値観が素晴らしかった。泉大津市は自治会があるので、その自治会を元気にする方策に使えるのではないだろうかと思ったが、どうなのだろうか。泉大津では、働いている高齢者も多く、家にいるが社会に参加したいという方々は、自治会に入っているのではないだろうか、対象が難しいのではないだろうかということも感じた。紙での冊子である点は、スマホなどの電子機器が苦手なお年寄りにはやさしい事業であると思ったが、電子機器が得意なお年寄りにとっては、ちょっと面倒に感じるかもしれないと思った。しかし、全般的には、利用者のために制度改定を行い、参加しやすい制度をめざす努力が本当に素晴らしいと感じた。

厚生文教委員会視察報告書

令和 5 年 8 月 25 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 丸谷正八郎

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 5 年 8 月 2 1 日 (月) ～ 8 月 2 2 日 (火)
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

埼玉県鴻巣市【1日目】

・デジタルシティズンシップ教育について

デジタルシティズンシップとは「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し参加する能力のこと」である。

これまでは、デジタルは非日常であった。これからは、デジタルは日常であり子どもたちが道具立てる文具情報ライフラインとなってくる。

学校での、デジタルシティズンシップ教育はカリキュラムの教科以上のものであるという認識が必要である。生徒会や保護者、外部・地域社会との連携など、より広い学校活動でも生まれる。デジタルシティズンシップ教育は学校の年間教育計画に統合し、あらゆる場面に関わる必要があると思う。特に学校での ICT 機器の活用については「利用のルール(規約)」を見直し、生徒・家庭・学校の役割を明確にして、安全・安心な活用ができるように取り組む必要があると感じました。

東京都豊島区【2日目】

・高齢者元気あとおし事業について

豊島区は、単身高齢者世帯が多く早くから様々な高齢者福祉事業に取り組んでいる。そのひとつが、平成 20 年度から開始した「高齢者元気あとおし事業」であります。高齢者の社会参加と地域貢献を組み合わせた合理的な事業であると思います。自宅での引きこもり防止や認知症防止にも役立ち、社会貢献ができることで生きがいづくりにもなると考える。ボランティア活動に対して 1 時間につき 1 ポイントのスタンプをもらい 10 ポイント貯まると千円に換金出来る制度となっているのが楽しんで参加できる要因かも知れません。

これからの、高齢者福祉サービス事業は「共に支え合い・共に助け合う」仕組みづくりが必要です。持続可能な制度として泉大津市に合った新たな事業展開のヒントになると思います。

厚生文教委員会視察報告書

令和5年 8月 30日

泉大津市議会議長 様

委員氏名：村岡 均

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和5年8月21日（月）～8月22日（火）
- 2 出張先 埼玉県鴻巣市、東京都豊島区
- 3 視察内容 埼玉県鴻巣市【1日目】
 - ・デジタルシティズンシップ教育について東京都豊島区【2日目】
 - ・高齢者元気あとおし事業について

4 所 見

「デジタルシティズンシップ教育について」

鴻巣市では市内全ての小中学校に最先端の ICT を導入し、国の GIGA スクール構想が立ち上がる前に「学校教育情報化推進計画」を策定し、子どもたちが ICT 機器を文房具のように日常的に使える環境を実現するため、独自の取り組みを多数実施している。その一つが、子どもたちを ICT 機器の善き使い手に導くためのデジタルシティズンシップ教育である。デジタルシティズンシップ教育とは ICT を利用する上で、自ら考えながら適切で責任ある行動規範を身につけることである。視察に行く前に確認した鴻巣市の資料に「今の子どもたちは、どこに行っても ICT がある社会に巣立っていきます。そのような情報社会の中で、悪影響や危険性を恐れて ICT を遠ざけるのではなく、モラルを持った前向きな使い方を学んだ上で、社会でいきいきと活躍し、幸せな生活をおくるためには、身近な道具として ICT を使うスキルが必要です。」との記載があった。泉大津市においてもタブレット端末の活用は全国や府と比較して高い水準となっている。今後とも ICT 機器を効果的に活用した学習活動を推進し、児童・生徒の情報活用能力の育成に努め、創造性を育む教育を進める事が重要である。

「高齢者元気あとおし事業について」

この事業は 60 歳以上の区民（または、豊島区介護予防サポーター養成講座修了者等）の皆さんが元気あとおし会員となり、福祉施設等での一定の活動（ボランティア活動）を通して社会参加・地域貢献をすることを、区が支援し、あとおしする事業である。フレイル予防・介護予防をあとおしし、ますます元気高齢者が増え、地域が元気になることを目的としている。そして、一定の活動を行うとスタンプがもらえ、貯まったスタンプ数に応じて換金できるものであります。

高齢化の進展に伴う介護需要の増大は日本が直面する重要課題の一つであり、介護予防の取組とともに、介護サービスの支えての裾野を広げる手だてが必要あると思う。この点で注目されるのが、介護支援のボランティア活動を通じて地域で交流し、支え合いの関係の構築を促す「元気あとし事業」である「ボランティアポイント制度」である。

日本福祉大学がボランティアポイント制度の効果を検証したところ、調査した自治体では介護予防と地域活動の参加促進の両面で効果が確認されたという事である。

泉大津市においても取り組んでみたい事業である。